

東洋大学校友会  
新潟県支部会報  
第40号

令和6年10月21日発行

# 南水

発行  
東洋大学校友会新潟県支部

発行者 小島正弘  
発行所 〒943-0891  
上越市昭和町2-19-30  
TEL.025-525-3825  
印刷・製本 株式会社 本間印刷所

## 令和6年度新潟県支部総会を上越で開催



令和6年8月24日 於:アートホテル上越



### ●●● 巻頭言ごあいさつ ●●●

新潟県支部長  
S39年経済学部経済学科 **小島正弘**

東洋大学校友会新潟県支部の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。ことし2024年(令和6年)最初の出来事は1月1日の能登地方を襲った最大震度7の地震です。尊い命が奪われ、大切な人を失った衝撃にどう向き合えばよいか、また、断水や停電、道路の寸断、店舗や工場が倒壊したことによる生活再建をどのようにするのか、課題は山積です。

被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。そして一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。さて、令和6年度東洋大学校友会総会は8月24日(土)上越市のアートホテル上越にて対面にて通常開催することが出来、校友31名の参加を頂きました。心より感謝申し上げます。総会ではまず支部長が開会の挨拶を行い、議事では令和5年度の会務報告・会計報告・監査報告、更に令和6年度事業計画案・予算案の審議を行い、全て原案通り承認されました。続いて校友会本部福原達夫副会長様のご挨拶、南水会新潟県支部松永克彦幹事様からのご祝辞を賜りました。誠に有り難うございました。引き続き令和7年度から9年度の新潟県支部長選挙を行い、次期支部長として下越地区の本間直彦氏が選出・承認されました。

その後講演会にはいり、「箱根から世界へ東洋大学を応援する会」の会長である安藤繁晴氏による【東洋大学チームの箱根駅伝復活に向けて】と題してご講演を頂きました。大いに期待できるお話をお聞き、是が非でも上位入賞を果たして貰いたいと心を一つに致しました。その後、懇親会に入り終始和やかに歓談し、懇親を深めました。出会いは人生の宝物、多様な体験を通じ価値観を広げ、校友の繋がりの大切さを再認識した総会・懇親会となりました。

さて、令和6年の年頭を飾った第100回箱根駅伝では総合4位と下馬評を覆し堂々の活躍であり、19年連続のシード権を獲得しました。立派な成績です。強さ健在、卒業生として選手諸君には拍手を送りたいと思います。また今季のチームスローガンは【鉄紺の覚醒】と定め、新チームがスタートしました。『頑張れ東洋大学!』です。皆様とともに精一杯応援したいと思います。また東洋大学が毎年主催している「現代学生百人一首」が朝日新聞の「天声人語」に載っていました。今回で37回目とのこと、その募集要項に今回初めて「生成AIを使用しない」との条件が明記されました。時代の流れの速さ、イノベーションを実感しています。集まったのは6万3606首とのこと、もの凄い数だと私は思います。応募する側は一個人でも主催する大学側の審査エネルギーの計り知れなさを考えると、長く続いたことの意味は極めて大きいと考えています。現代学生の物の見方、生活感覚が良く分かります。これからも続けて欲しいと思いますし、更なる飛躍を期待しています。

今年2024年は、1894年(明治27年)に哲学館同窓会が設立されて130周年の節目迎えます。新潟県支部は学祖井上円了博士の出身地であり、新潟県支部は1896(明治29年)に設立され128年の歴史を刻んできた最も活動歴の長い支部の一つです。今後とも校友会新潟県支部の活動に皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

# ◆◆◆◆◆ 第90回新潟県支部総会の模様 ◆◆◆◆◆

令和6年8月24日 アートホテル上越

## 総会次第

総会・講演会司会進行	吉田 実
開会宣言	〃
物故者への黙禱	〃
新潟県支部長挨拶	小島 正弘
祝辞 校友会本部(副会長)	福原 達夫 様
祝辞 甫水会新潟県支部(幹事)	松永 克彦 様
議長選出	木村 国夫
議事	
①令和5年度会務報告	小島 正弘
②令和5年度会計報告	石田 秀男
③監査報告	牛木 良仁
④令和6年度事業計画	小島 正弘
⑤令和6年度予算	石田 秀男
“①～⑤全て原案どおり可決されました。”	
⑥次期(R7年～9年)支部長選出	山崎 次男
“本間直彦氏(下越地区)が選出されました。”	
記念講演	安藤 繁晴 様
～演題:東洋大学チームの箱根駅伝復活に向けて～	
閉会・記念撮影	吉田 実



祝辞 福原副会長



祝辞 甫水会幹事 松永様



総司会に奮闘する吉田事務局長



審議を行う総会出席者



議事進行を行う木村副支部長



会務報告を行う小島支部長



会計報告の石田会計部長

新支部長選出



次期支部長: 本間直彦氏  
「令和7年～9年までの3年間  
皆様の絶大なるご協力を  
お願い致します!!」とごあいさつ

記念講演の安藤繁晴氏  
演題 東洋大学チームの箱根駅伝復活に向けて

- 1, 今季チーム目標  
「鉄紺の覚醒」～昨年「鉄紺の再建」で 築き上げた土台を発展させ、更なる 飛躍!  
➡ **箱根駅伝総合優勝**
- 2, 東洋大学復活への道のり  
・ 今季4月以降の際立つ活躍ぶり  
・ 厚底シューズ開発普及、支援体制強化  
・ 高酸素、低気圧ルームの活用など
- 3, 以上より第101回箱根駅伝を占う  
・ チームの結束力強まり、選手の実力UP  
・ 強力選手の復活、残留、新メンバー加入  
・ 各区間に複数の選手候補

**更なる飛躍が期待できると予想**  
勝利至上主義の応援はしない。選手が苦しい時ほど暖かい応援を!! 選手の力になる応援・支援、選手の迷惑にならない応援を!!



記念講演講師: 安藤繁晴氏  
現在、「箱根から世界へ 東洋大学を応援する会」の会長を5年前からつとめられている。

和気あいあいの懇親会風景



乾杯の音頭をとる  
中川副支部長



阿部氏による恒例の応援歌  
“カッタカッタ東洋”

**令和5年度 東洋大学校友会新潟県支部 収支計算書**

自: 令和5年4月1日 ~ 至: 令和6年3月31日

単位: 円

【収入の部】		予算額	決算額	増減	摘要
本部交付金	年会費交付金収入	130,000	110,000	20,000	110名 @1,000円
	終身会費交付金収入	80,000	70,000	10,000	70名 @1,000円
	新卒者納入会費交付金	10,000	2,000	8,000	2名 @1,000円
	周年企画補助収入	0	0	0	
	支部事務費補助収入	20,000	20,000	0	
	支部会報発行助成収入	40,000	40,000	0	
	ホームページ助成収入	10,000	10,000	0	
	総会特別企画補助収入	20,000	30,000	-10,000	
	女性参加促進助成収入	10,000	0	10,000	
	支部総会通信費収入	80,000	0	80,000	
小計①	400,000	282,000	118,000		
支部内収入	支部総会参加費収入	400,000	274,000	126,000	
	支部会費収入	0	0	0	
	寄付金収入	0	0	0	
	預金利息収入	2	2	0	
	雑収入	0	18,000	-18,000	
	支部総会祝儀	20,000	20,000	0	
	小計②	420,002	312,002	108,000	
	収入計③=①+②	820,002	594,002	226,000	

  

【支出の部】		予算額	決算額	増減	摘要
支部内経費支出	支部総会関連費支出	450,000	343,000	107,000	
	支部会報作成費支出	150,000	140,000	10,000	
	支部活動費支出	30,000	0	30,000	
	地区活動費支出	60,000	70,000	-10,000	
	会議費支出	20,000	15,500	4,500	
	通信費支出	30,000	28,378	1,622	
	印刷費支出	5,000	150	4,850	
	事務用品消耗品費支出	10,000	0	10,000	
	旅費交通費支出	20,000	19,580	420	
	雑費支出	10,000	0	10,000	
渉外費支出	20,000	10,000	10,000		
雑支出	5,000	2,580	2,420		
ホームページ助成	10,000	10,000	0		
女性参加促進助成	10,000	0	10,000		
予備費支出	5,000	5,000	0		
支出計④	835,000	639,188	195,812		
当期収支差額⑤=③-④	-14,998	-45,186	30,188		
前期繰越収支差額⑥	311,599	311,599	0		
次期繰越収支差額⑦=⑤+⑥	296,601	266,413	30,188		

  

【別途積立金】		収入	支出	残高	摘要
積立金					
積立金					
計					

上記のとおりで報告いたします  
 令和6年6月16日 支部長 小島正弘 会計担当 石田秀男  
 上記決算報告について監査した結果、適正であると認めます。  
 令和6年6月16日 監査 海雄 監査 牛木良仁

**令和5年度 会務報告**

(2023年4月1日～2024年3月31日)

2023年

4月 2日(日) 新年度計画準備役員会

4月23日(日) 令和5年度第1回役員会(ウェブ会議) 10:00-12:00  
上越市「ターミナルホテル」開催

5月 令和5年度支部長会「担当事務から連絡なし」

5月21日(日) 上越地区役員会 開催

5月26日(金) 校友会長とのブロック別意見交換会(北陸・甲信越・東海近畿ブロック) 開催

6月10日(土) 第2回役員会(ウェブ会議、支部総会等協議) 開催

6月25日(日) 中越地区役員会 開催

7月 城西支部総会 開催

7月 2日(日) 浦水会新潟県支部総会 開催

8月26日(土) 校友会新潟県支部総会(下越地区) 開催  
ホテル、グローバルビュー新潟

10月1日(日) 2日(月) 気軽な座談会(下越地区) 中止

10月7日(土) 米百俵まつり(中越地区) 開催

10月15日(日) 大学対抗親善ゴルフ大会(上越地区) 開催

10月 レディースクラブ「女性の集い」中止

10月23日(月) 会報水39号発刊 330部

11月5日(日) 東洋大学ホームカミングデー 開催

11月10日(金) 上越地区総会「ターミナルホテル」 開催

11月11日(土) 白山会(下越地区交流会) 中止

12月3日(日) 第3役員会(年間活動の総括、忘年会) 開催

2024年

2月17日(土) 坂口安吾忌(下越地区) 開催

3月 9日(土) 駅伝祝勝会(中越地区、長岡市 彦乃) 開催

4月 1日(日) 支部会計監査

**令和6年度 東洋大学校友会新潟県支部 収支予算書**

自 令和6年4月1日～至 令和7年3月31日

単位: 円

【収入の部】		令和6年度 予算額(イ)	令和5年度 予算額(ロ)	決算額	増減 (イ)-(ロ)	摘要
本部交付金	年会費交付金収入	110,000	130,000	110,000	-20,000	130名@1,000円
	終身会費交付金収入	70,000	80,000	70,000	-10,000	90名@1,000円
	新卒者納入会費交付金	2,000	10,000	2,000	-8,000	10名@1,000円
	周年企画補助収入	0	0	0	0	
	支部事務費補助収入	20,000	20,000	20,000	0	
	支部会報発行助成収入	40,000	40,000	40,000	0	
	ホームページ助成収入	10,000	10,000	10,000	0	
	総会特別企画補助収入	30,000	20,000	30,000	10,000	
	女性参加促進助成収入	0	10,000	0	-10,000	
	支部総会通信費収入	0	80,000	0	-80,000	
小計①	282,000	400,000	282,000	-118,000		
支部内収入	支部総会参加費収入	300,000	400,000	274,000	-100,000	
	支部会費収入	0	0	0	0	
	寄付金収入	0	0	0	0	
	預金利息収入	0	2	2	-2	
	雑収入	0	0	18,000	0	
	支部総会祝儀	20,000	20,000	20,000	0	
	小計②	320,000	420,002	312,002	-100,002	
	収入計③=①+②	602,000	820,002	594,002	-218,002	

  

【支出の部】		令和6年度 予算額(イ)	令和5年度 予算額(ロ)	決算額	増減 (イ)-(ロ)	摘要
支部内経費支出	支部総会関連費支出	340,000	450,000	343,000	-110,000	
	支部会報作成費支出	70,000	150,000	140,000	-80,000	
	支部活動費支出	0	30,000	0	-30,000	
	地区活動費支出	70,000	60,000	70,000	10,000	
	会議費支出	30,000	20,000	15,500	10,000	
	通信費支出	30,000	30,000	28,378	0	
	印刷費支出	1,000	5,000	150	-4,000	
	事務用品消耗品費支出	10,000	10,000	0	0	
	旅費交通費支出	20,000	20,000	19,580	0	
	雑費支出	10,000	10,000	0	0	
渉外費支出	10,000	20,000	10,000	-10,000		
雑支出	5,000	5,000	2,580	0		
ホームページ助成	10,000	10,000	10,000	0		
女性参加促進助成	0	10,000	0	-10,000		
予備費支出	10,000	5,000	5,000	0		
支出計④	616,000	835,000	639,188	-219,000		
当期収支差額⑤=③-④	-14,000	-14,998	-45,186	998		
前期繰越収支差額⑥	266,413	311,599	311,599	266,413		
次期繰越収支差額⑦=⑤+⑥	252,413	296,601	266,413	267,411		

**令和6年度 東洋大学校友会新潟県支部事業計画(案)**

(2024年4月1日～2025年3月31日)

2024年

4月 2日(日) 新年度計画準備役員会

4月21日(日) 令和6年度第1回役員会(web会議) 10:00-12:00  
上越会場「ターミナルホテル」

5月 令和6年度支部長会

5月19日(日) 上越地区役員会(県支部総会原案作成) 市民プラザ

5月 9日(木) 校友会長とのブロック別意見交換会(北陸・甲信越・東海近畿ブロック)

6月16日(日) 第2回役員会(web会議、支部総会等協議) 10:00-12:00  
上越会場「ターミナルホテル」

6月23日(日) 浦水会新潟県支部総会 新潟市万代シルバーホテル

7月 城西支部総会

8月24日(土) 校友会新潟県支部総会(上越地区) 会場、「アートホテル上越」

10月5日(土) 米百俵まつり(中越地区)

10月20日(日) 大学対抗親善ゴルフ大会(上越地区)

10月 レディースクラブ(女性の集い)

10月23日(水) 会報水40号発刊

11月 3日(日) ホームカミングデー

11月9日(土) 白山会(下越地区交流会)

12月1日(日) 第3回役員会(年間活動の総括、忘年会)

2025年

2月17日(月) 坂口安吾忌(下越地区)

3月8日(土) 駅伝祝勝会(中越地区)

4月1日(日) 支部会計監査

## 上越だより

## 土地改良と私

H10年社会学部社会学科卒 松野 龍郎



満水状態の笹ヶ峰ダム

学生時代の同級生と再会:令和5年12月31日  
長良川温泉 ※左端が筆者

私は、一人っ子だったこともあり大学卒業と同時に帰郷し縁あって上越市に位置する関川水系土地改良区(合併前 中江土地改良区)という公法人に就職しました。土地改良区という組織に馴染みのない方も多いと思いますが土地改良区とは農業用施設の維持管理や土地改良事業を行う団体で私が勤務する関川水系土地改良区では、笹ヶ峰ダムや世界かんがい遺産にも選ばれた上江用水路など、約5,630ヘクタールの水田を潤すに必要な農業施設の維持管理を行っています。

又、長野県信濃町に維持する野尻湖の水利権(977万トン)も有しています。

就職したばかりの頃は、総務課に配属されましたが半年で土地改良事業を推進する部署に異動し、以降一貫して土地改良事業に関わる形で勤続25年を迎えました。土地改良事業とは、農業経営者の育成を目的に農地の拡大や用排水施設の整備を行う公共事業で近年は急速に近代化が進み用水管理を遠隔操作するICT技術や農業機械の自動化などいわゆるスマート農業の推進も行っています。

同僚は、やはり工学部、農学部出身が多く、学生時代に工学や農業を学んでいない自分の仕事には「深みがない」と悩んだ時期もありますが多くの先輩方から学び、この年齢でようやく自信も湧いてきました。

土地改良事業を通じ出会いもありました。忙しさにかまけて校友会と疎遠になっていた私に再び声をかけてくれたのは高橋則時先輩でした。高橋先輩は、三和西部地区ほ場整備事業促進協議会の会長を務めており、仕事で度々お会いする中で再び校友会に参加させて頂くチャンスを作って頂きました。同地区の事業が完了した際、竣工式典の担当もさせて頂き深いご縁を感じました。

又、山崎次男先輩は、今池地区ほ場整備事業促進協議会の会長を務めておりこのご縁で校友会だけでなく日々、土地改良事業を通じ交流させて頂いております。事業完了が間近に迫った地区だけで日々、緊張し業務に携わっています。

近年、私が携わらせて頂いた地区に高野地区(上越市板倉区)という土地改良事業を行った地区があります。この地区は、北陸最大の農地4.2ヘクタール区画ほ場を造成しました。農地1枚の区画は、整備した農地であっても1ヘクタール程度が一般的ですが当該地区は甲子園球場の約1.1倍に匹敵する超大区画を採用しました。この農地では、不耕起V溝乾田直播という新たな営農技術も取り入れ、農業経営する上で多くの時間を割く必要がある耕耘、代掻き、田植え(苗作り)といった作業を不要とし大幅なコスト削減により農業者の所得向上を実現させました。若者に敬遠されがちな農業の世界は今、先進技術により新たな展開を切り開く段階にあります。微力ながら私もその一助となるよう、今後も努力します。

学生時代の友人は全国へと散らばりましたが決まって年末に再開し、温泉宿で1泊します。気が付けばこんなことを25年継続していました。恐らく毎年、同じ話。あいつが女に振られた。あいつが白山駅で酔いつぶれた。あいつが学園祭で大チョンボした など。

でも飽きることなく語り続けることが出来るのは親友だからだと思います。

これからも郷土の学友、遠くに暮らす学友と大切な時間を過ごしたいと思います。

# 中越だより

## 重伝建

S49年経営学部商学科卒 本間 満



(前列左端が本人)

中越地区では毎年、箱根駅伝祝勝会と銘打って懇親会を実施しております。今年は3月9日に13名の校友が集い親睦を深める事が出来ました。その際、校友の久須美酒造の久須美記廼(のりみち)様より乾杯酒として「亀の翁」をいただき、いつもながらのお心使いに一同感謝し大変盛り上がりました。今から24年前の2000年の7月の雑誌に「伝統の町並み55選」という記事が掲載されていました。

それらは文化庁が所管する「重要伝統的建造物保存地区」＝「重伝建」の事で、いわば町並みそのものが文化財でその地区で生活されている住民の方々为主体となって保存や

美化に取り組んでいるとお聞きしております。当時、私は旅行会社に勤務しており数カ所は訪れた地区がありましたが聞いた事がない地区や地名も多数ありました。そしていつかは全ての土地を訪れてみたいと思っておりました。

その後、20年が経過した4年前に旅行をするのに時間的な余裕を持てるようになったので改めて調べてみたところ当時55カ所だった地区は2倍強の120カ所前後に増えておりびっくりいたしました。2024年には127カ所になっており毎年確実に増えている様です。北は北海道の函館から南は沖縄の竹富島と広範囲なっていますがやはり遠くの地域への訪問は移動時間がかかる事や費用面で高額になりました。

1カ所目の訪問地は佐渡の宿根木地区でした。直江津港からフェリーで小木港へ。路線バスを乗り継いで宿根木への単純往復の日帰り旅行でした。特別な観光地でないので賑わいが感じられなかった事が印象的でした。

全般的に重伝建地区は一部の地域を除いて静かなる観光地です。それから4年を経て、ついに今年の7月に全地域の127カ所を巡る事が出来ました。基本的には日帰りか往復夜行便を利用した弾丸旅行でしたが沖縄などは止む無く現地で1泊する事になりました。4年間の旅を通してJR駅スタンプや神社仏閣の御朱印の収集をする事や、更に名物駅弁や地元のB級グルメを食すという新たな楽しみも発見出来ました。今年の5月の報道に本年度中に新たに佐渡の小木地区と長野県の須坂地区が重伝建に答申されるとの事、私の旅はまだまだ続く事になります。



佐渡 宿根木地区

# 下越だより

## 弥彦登山の景色

S47年工学部建築科卒

中條 文雄



私は46歳の折に子供の父兄として学校登山の八海山に随行したことで山の魅力と登れることの体力を知り、翌週に改めて八海山八つ峰縦走にチャレンジし、以来付近の会津磐梯山、苗場山と巡り山仲間を増やしていきました。

そうした中で膝の軟骨を失い、日常生活に影響することとなり整形外科医院に通ってはみましたが水抜きとヒアルロン酸の注入の繰り返しで快方に向かうところか障害者の景色を見るところとなり日々不安の中にいました。

70歳を迎える年明け除雪作業中に、今年で車椅子かと思ひ悩んでいた中で医療の世界に関わる息子から猫山宮尾病院の涌井医師が人工関節施術では県内で一番と話があり即迷うことなく病院に飛び込みました。

涌井医師に診察で手術したら85歳までゴルフをしたい、山も歩きたい、孫と走り回りたいと伝え「できますか」と問うたところ「あなたの努力次第!」と返され、また同じことを医師に繰り返したところ「あなたの努力次第」とさりりと返されました。左の膝が特に具合悪かったのですが両足とも膝軟骨がきれいになっていましたから「両足をやる」と意向を出したところ簡単に引き受けられてしまいました。

涌井医師の手術は3か月待ちとされていましたが運よく翌月の手術の予約が取れ、5月の連休中の入院リハビリとなり予定通り2週間で退院出来ました。退院に至り医師にゴルフはいつからできるか聞いたところ9月くらいかなと返され、山は?と話題を出したら1年後の検査で様子を見ようとされました。杖を用意していましたが1か月ほどで不要になり車の運転も可能となりました。8月終わりに試しにとゴルフに出ましたがスコアは別にしてラウンド出来うれしかったものでした。順調さを感じながら1年後の検査に臨み順調とされましたので、山のことを具体的に検討しましたが下れなかったらどうしようという不安が付きまとっていました。元気に山を楽しんでいた時は角田山灯台コースでトレーニングしていてイメージしていましたが万一下れなかったことなどを考えると躊躇していました。そんな中で弥彦山ロープウェイの文字が目に入り先ずは弥彦山に登ることとしました。妻が同行してもいいと応えられ、手術1年半後にゆっくと弥彦山に登りました。当然下山の体力なくロープウェイを利用し満足して帰宅しました。その後、無理をせず梅池高原や月山網が原湿原、蔵王山稜線などトレッキングしながら高さを上げ距離を伸ばして楽しんでいきます。

その間に孫たちに喜びを理解してもらおうべく描いたのがこの弥彦山のネズミ絵です。

私がこの中に描かれている鳥獣戯画として説明しています。



# 箱根駅伝 安藤ミュージアム 訪問記



玄関には「ようこそ箱根駅伝 ANDOミュージアムへ」の看板が掲げられている。



今迄の大会ポスターが全て揃う



過去100回分の記録、エピソードを毎年付け加え冊子として保存



実際に駅伝で走った有名選手たちのマラソンシューズ



服部兄弟のタスキリレー



今年度の校友会新潟県支部総会の記念講演として、妙高市にお住いの昭和46年経営法学部卒の安藤繁晴氏よりご講演を頂いたが、その講演内容に大いに感動し是非博物館を見てみたいと思い、早速翌週、安藤氏の自宅兼「箱根駅伝ANDOMUSEUM」を訪問してきた。

三階建自宅の三階部分を全て箱根駅伝の資料館として開放しているのである。歴代の選手達が実際に使用したガウン・シューズ・ランニングウェア、そして表彰状・メダル等、また箱根駅伝で走る歴代選手達の勇姿、新聞記事など実によく整理保存されいつでも見れる状態になっている。よくもまあここまで蒐集したものだと驚きの連続であった。

妙高市の妙高高原地域は、箱根駅伝に出場する各大学のマラソンチームが毎夏合宿に来ることで有名である。安藤ミュージアムのすぐ目前がトレーニングの中心となっている妙高高原体育館であり、グラウンド及び自宅周辺では、日々選手達がハードなトレーニングを行っている。訪問当日もある有名大学の選手達が列を組んで持久力アップのトレーニングを繰り返しており、選手たちの成長度合いも手に取る様に良く判ると言う。過去には東洋大学酒井監督や青山学院の原監督などもミュージアムを訪問し、歴史的な展示物を手に取り安藤氏の説明を受けて懐かしんでいたそうである。

安藤氏が何故にこれ程までに箱根駅伝にのめり込んでいるのか不思議だったが、記念講演会のレジュメにも記載されていたとおり、平成13年、14年(今から23年前の第77回、第78回)箱根駅伝に東洋大学が不出場となり非常に悔しい思いをしたとのこと、そして常時出場への思いが昂じて、平成14年に「東洋大学箱根駅伝を応援する会」が新規設立されると同時にその会に入会して応援・支援活動を開始されたとのことだ。この会は平成元年に「箱根から世界へ 東洋大学を応援する会」に改組・改名されることになるが、安藤氏はその会の会長を務めており、今も他大学を含めた各選手の成長ぶりや調子の良し悪しを見極めたり、箱根駅伝、全日本大学駅伝等には各区分に亘り電車で先回りを繰り返し応援を展開されている。筋金入りの駅伝ファンであり、駅伝マニアであり、駅伝博士です。

(文責:会報部長)

## 編集後記

県支部予算不足の解消策として、本年度より県支部会報「雨水」の印刷・郵送配布を中止し、代わりに広報誌は校友会本部のホームページに掲載し、校友各自がそれをダウンロードし入手する形式に変更致しました。

また会報制作の費用削減のために印刷所の編集手間を出来る限り省けるよう手作りの広報誌としています。

従来と較べあまりに大幅な変化で疑問を感じられる会員もおられるかと思いますが、背に腹も代えられずまずは新しい方法に挑戦し、問題があればまた皆様と一緒に考えて是正してゆくと言うように柔軟な姿勢で取り組んで参りたいと思います。ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

S47年経営学部商学科 会報部長 高島幸男